



2010年3月期第2四半期 業績概要

2009年10月29日

アンリツ株式会社
社長 戸田 博道

東証第1部: 6754
(<http://www.anritsu.co.jp/j/ir>)

注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的
事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を
含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関
する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能
性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、
さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知お
きください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、
米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や
競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引
き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなど
です。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、
法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、
将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

目 次

- 当社の事業セグメントの呼称と事業内容
- サマリー
- 2010年3月期第2四半期の業績の概要
- 2010年3月期の通期見通し
- 今後の取り組み

当社の事業セグメントの呼称と事業内容



セグメント	サブセグメント	事業内容	担当事業部門 の主な所在国
計測器	NGNおよびインフラ関連分野	光・デジタル・IP通信機器の開発・製造用テスト、有線ネットワークおよび無線インフラ敷設・保守用テスト、サービスアシュアランスなど	日本・米国・デンマーク・イタリア
	携帯端末分野	携帯電話端末開発・製造・保守用テスト	日本・英国・米国
	汎用分野	無線設備、電子部品等の開発・製造用汎用テストなど	米国・日本・英国
情報通信		映像配信機器、通信機器、IPスイッチとその応用システムなど	日本
産業機械		食品・薬品・化粧品用重量選別機、異物検出機など	日本、タイ
その他		精密計測、光デバイスなど	日本

サマリー(1)



第2四半期業績(連結)サマリー

(単位: 億円)

	前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	448	362	△ 86	△19%
売上高	444	338	△ 106	△24%
営業利益	5	9	4	68%
経常利益	2	1	△ 1	△20%
税引前当期純利益	△12	4	16	-
当期純利益	△16	△1	15	-
フリーキャッシュフロー	42	41	△ 1	△2%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

サマリー(2)



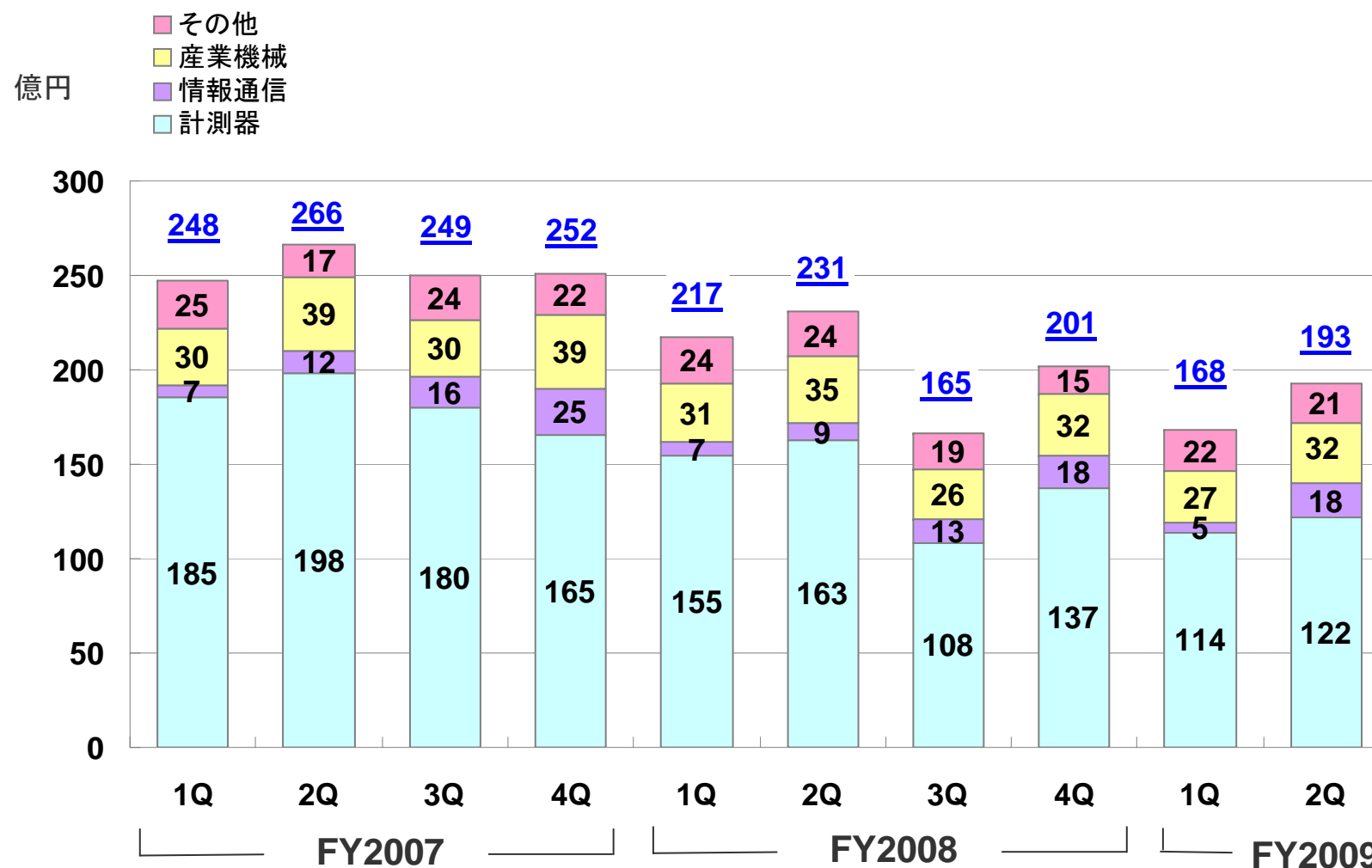
営業概況

計測器	顧客の設備投資抑制により、厳しい事業環境が継続 LTE ^{注)} 開発用計測器の需要は国内外で想定通りに推移 TD-SCDMA ^{注)} 端末開発用計測器の引き合いはグローバルに増加 中国3Gインフラの投資は継続、計測器への発注は若干ずれ込み サービスアシュアランス事業は計画通り
情報通信	計画通り
産業機械	アジアの設備投資が回復傾向、全体として計画通り
その他	光デバイスはブロードバンド化により需要が好調

注) LTE (Long Term Evolution) : 次世代携帯電話の通信規格。

TD-SCDMA : 第3世代携帯電話の規格の一つで世界最大の加入者を抱えるチャイナモバイルが採用した規格。

事業別受注推移(連結)



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

事業別売上高・営業利益(連結)

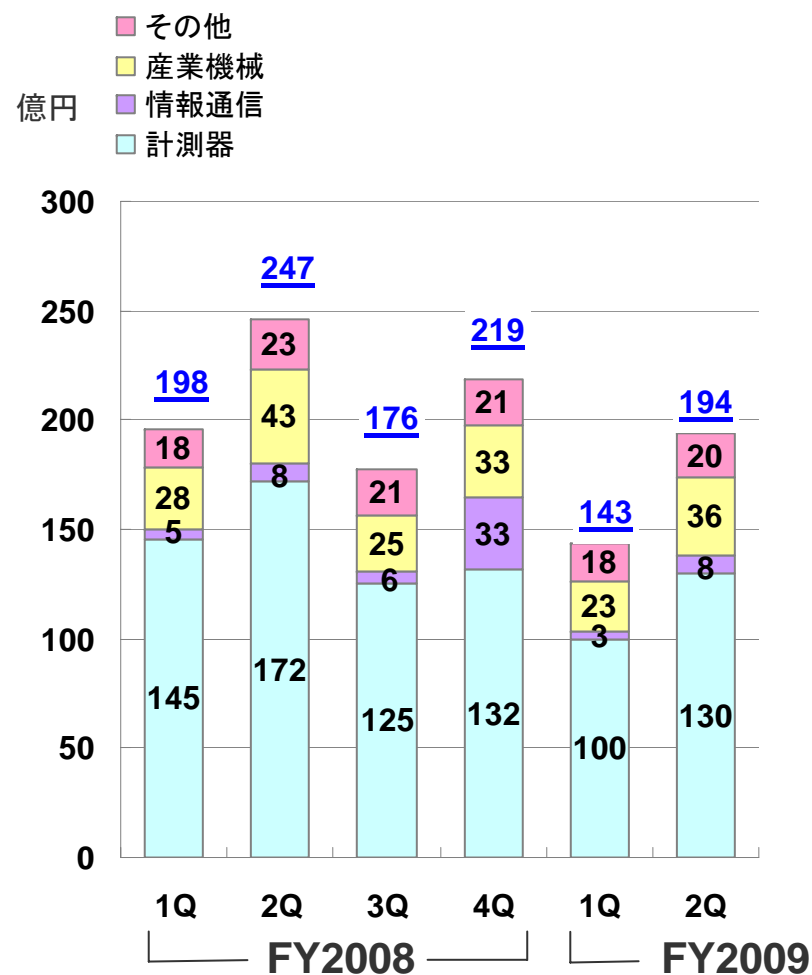


(単位: 億円)

		前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
計測器	売上高	318	230	△ 88	△ 28%
	営業利益	1	3	2	201%
情報通信	売上高	14	11	△ 3	△ 19%
	営業利益	△ 5	△ 7	△ 2	-
産業機械	売上高	72	58	△ 14	△ 18%
	営業利益	4	3	△ 1	△ 20%
その他 (含: 内部 消去)	売上高	41	38	△ 3	△ 8%
	営業利益	5	10	5	98%
合計	売上高	444	338	△ 106	△ 24%
	営業利益	5	9	4	68%

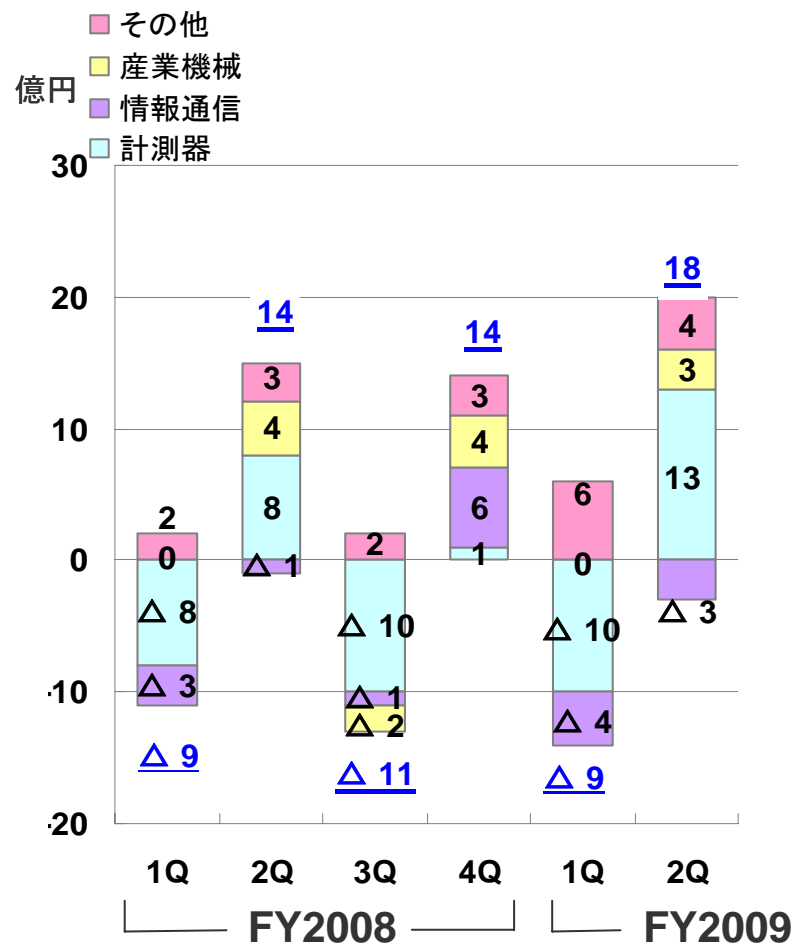
(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

事業別売上高・営業損益推移(連結)



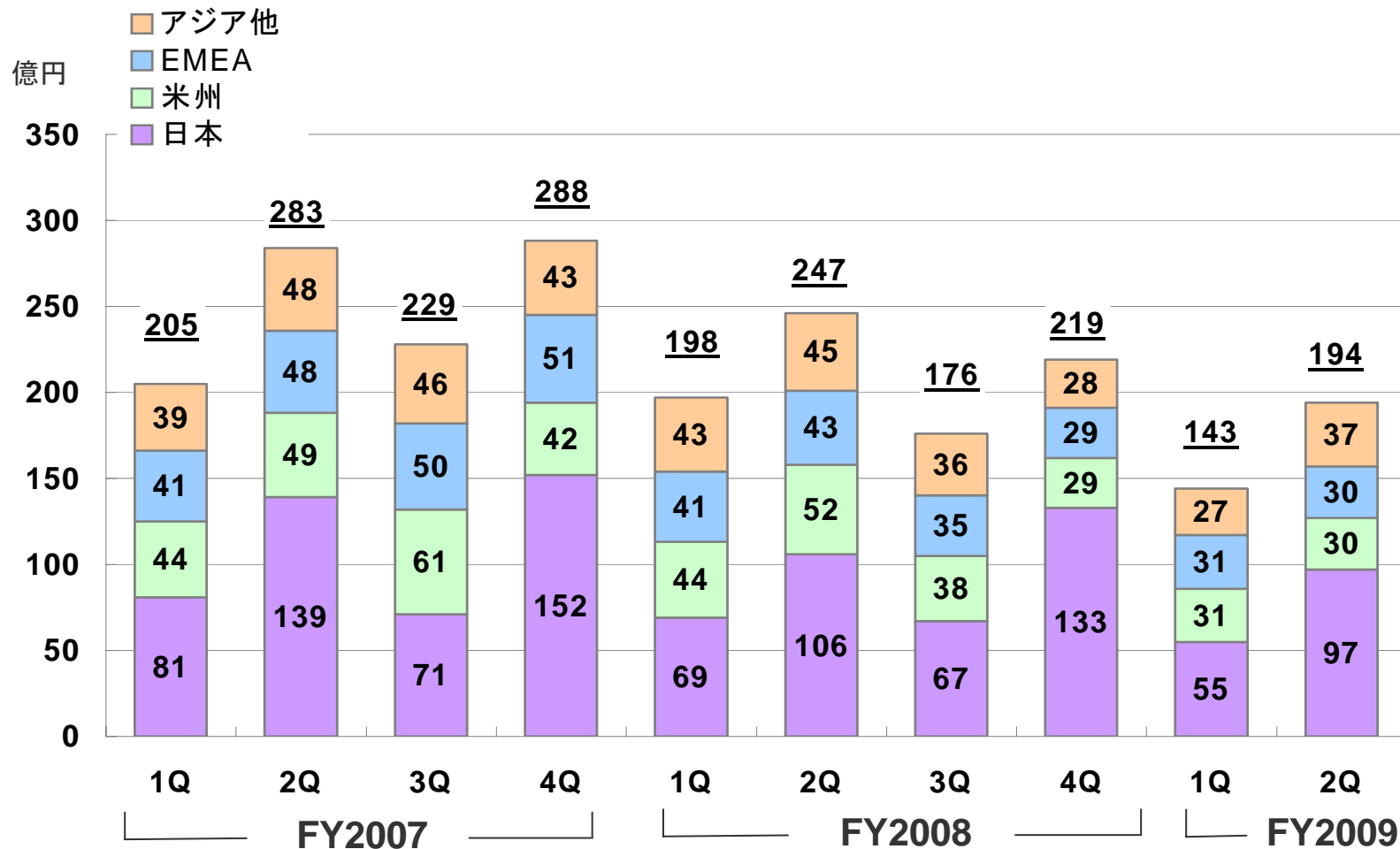
連結売上高

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入



連結営業利益

地域別売上高推移(連結)



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

営業外・特別損益概要(連結)



(単位: 百万円)

	前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績
営業利益	544	912
金融収支	△ 241	△ 205
為替差損益	△ 179	△ 448
その他	53	△ 118
営業外損益計	△ 367	△ 770
経常利益	177	142
固定資産売却益	-	149
投資有価証券売却益	-	140
新株予約権戻入益	35	-
投資有価証券評価損	△ 52	△ 6
たな卸資産評価損	△ 1,358	-
特別損益計	△ 1,375	282
税引前利益	△ 1,198	424

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

キャッシュフロー概要(連結)



第2四半期累計

- ①営業CF: 41億円
- ②投資CF: △0億円
- ③財務CF: 112億円

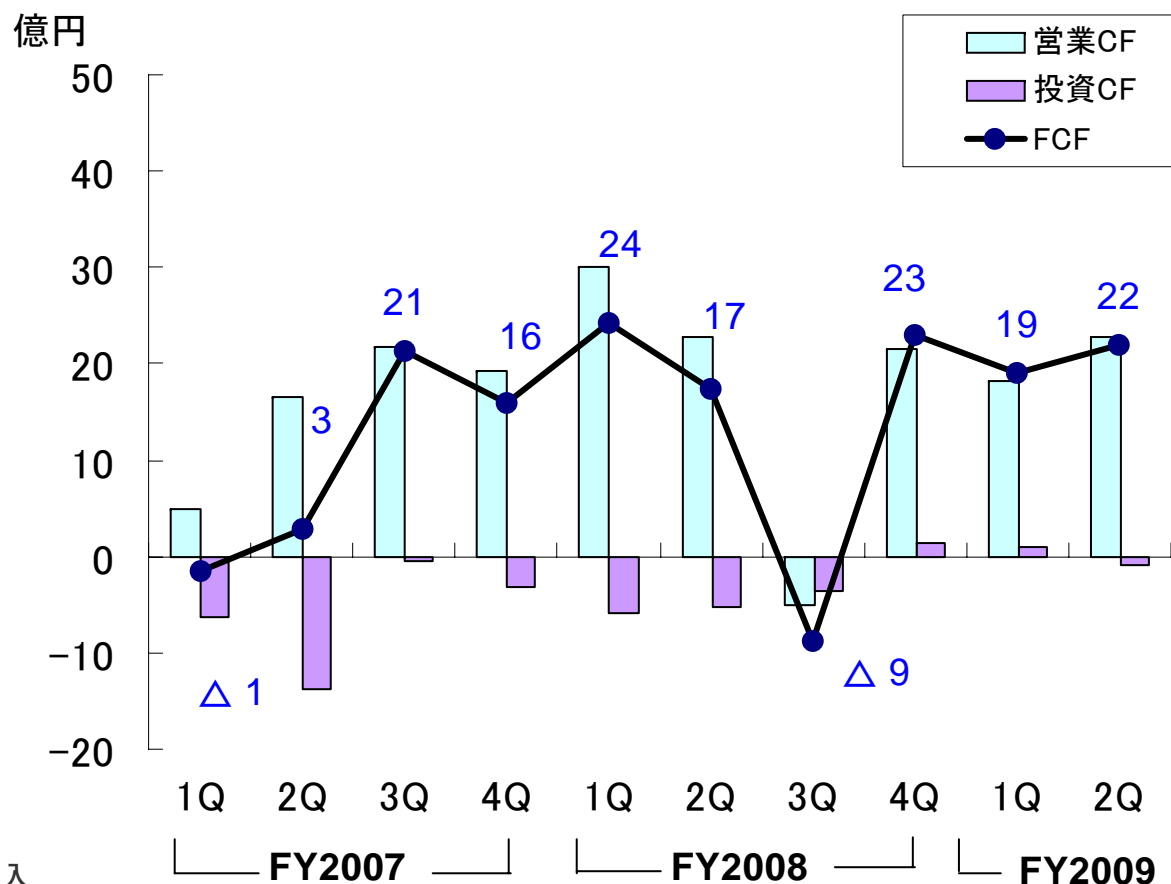
フリーキャッシュフロー

(①+②): 41億円

現金同等物期末残高

338億円

FCF推移



2010年3月期 通期の見通し(連結)

(単位：億円)

		2009/3期	2010/3期	
		通期実績	通期予想	前期比 増減額 増減率(%)
売上高		839	730	△ 109
営業利益		9	30	21
経常利益		2	15	13
当期純利益		△ 35	5	40
計測器	売上高	574	485	△ 89
	営業利益	△ 8	13	21
情報通信	売上高	52	50	△ 2
	営業利益	1	0	△ 1
産業機械	売上高	130	120	△ 10
	営業利益	6	4	△ 2
その他	売上高	83	75	△ 8
	営業利益	10	13	3

配当：無配予定

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

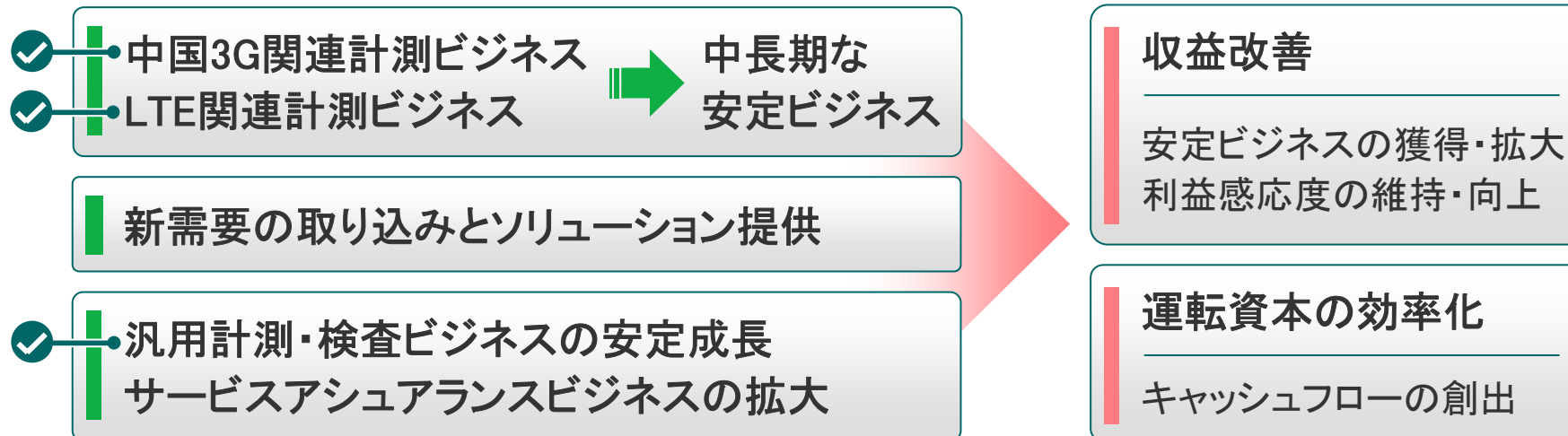
(参考) 想定為替レート：1米ドル＝90円

今後の取り組み

中長期の取り組みと目標



財務体質の安定



目標

営業利益率：10%

ROE：10%

強みを活かした汎用計測市場の拡販



当社の強み

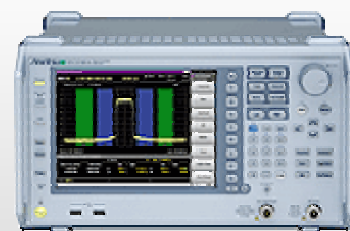
3G端末の開発用計測器
基地局向け建設・保守用計測器
ベースとなる無線信号の解析、測定技術
通信市場の顧客とのコミュニケーション力

今期実施した主な取り組み

機能拡充:ベクトル変調解析ソフト追加
LTE TDD対応ソフト追加
大手基地局ベンダーへのアプローチ

ターゲット市場と主な提供ソリューション

通信市場
製造分野
EMC市場



シグナルアナライザ

成果と今後の取り組み

成果:大手基地局ベンダーとの取引拡大
今後:サポート強化と機能強化により
ビジネス拡大
ラインナップ拡充と対象分野への
販促活動によるビジネス拡大

注) EMC市場:電磁波対策、電磁波障害等の市場

LTE TDD:次世代携帯電話の通信規格(LTE)の一つで、時間分割で送受信する方式。

中国3G:市場動向とアンリツの取り組み



ネットワーク機器ベンダー

Datang, Huawei, ZTE,
Alcatel Shanghai Bell, Ericsson,
Nokia Siemens Network

基地局
アナライザ



チップセットベンダー

T3G(ST-Ericsson)
Qualcomm
MTK/Leadcore
Spreadtrum ...

シグナリングテスト TD-SCDMA HSPA対応



アンリツの取り組み

通信インフラ: 建設・保守用
計測器の投入
チップセット、端末: TD-SCDMA用
計測器の投入

携帯端末ベンダー

Samsung, Motorola, HTC,
Huawei, ZTE, Nokia, LG,
DELL, Lenovo, Sharp, Apple,



ラジオコミュニケーションアナライザ
TD-SCDMA HSPA対応

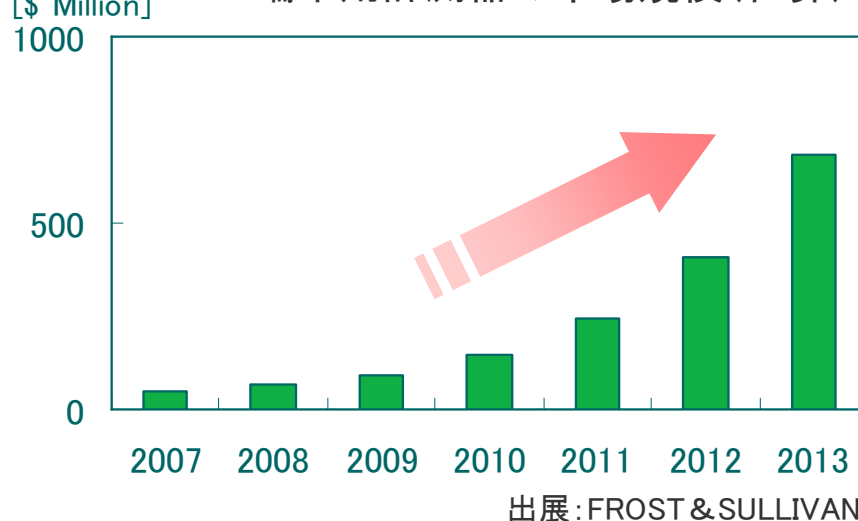
LTE: 市場動向とアンリツの取り組み



LTE市場

- ・LTEの導入予定: 21カ国/42通信事業者(2010年導入予定: 15通信事業者)
- ・参入ベンダー: 端末、通信機器、PC、…(新プレイヤも参入)
- ・対象品(デバイス): 携帯端末、PC、ネットブック、…
- ・開発状況: NTT DoCoMoと国内3端末ベンダーがチップセットの試作品を開発

売上高
[\$ Million] LTE端末用計測器の市場規模(世界)



アンリツの取り組み

標準化活動へ参画
顧客とのロードマップ共有
開発初期からのソリューション提供
開発効率を支えるソフトウェアツール
迅速かつ柔軟な顧客サポート



シグナリングテスタ



フェージングシュミレータ

Anritsu

Discover What's Possible™